

平成 26 年度

第 59 回 長野県中学校連合教科研究会

総合的な学習の時間

I	研究テーマ	1
II	趣 旨	1
III	参加校テーマ一覧と参加者氏名・指導者氏名	1～2
IV	研究問題と協議内容	2～4
V	本年度研究会の反省と来年度の方向	4
VI	あとがき	5

I 研究テーマ

地域や学校の特徴を生かした総合的な学習の時間のカリキュラム開発

II 趣旨

各学校や地域の特徴を生かしながら、総合的な学習の時間が行われている。しかし、どのような活動をしていくかということに目を奪われがちになってしまい、育てたい生徒の姿やその姿をもとにした「つける力」を決めだしていくことについて、おろそかになってはいないだろうか。その単元（題材）や一時間の授業を構想するだけでなく、ロングスパンでの生徒の育ちを我々教師は見ていく必要があるのではないだろうか。そのために、教師はどのような支援をしていったらよいか。また、生徒が示す行為やその行為の背景にある思いをどのように読み解き、評価していったらよいか。このようなことを考えていくことで、生徒一人ひとりの学びの姿が見えてくると考える。また、学習指導要領に書かれている「探究的な学習」や「問題解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度の育成」、「自己の生き方を考える」という視点をもちながら、研究や実践を深めるようにしたい。

III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名

第1分科会

指導者	中島 健 先生 (中信教育事務所指導主事)	
司会者	田中 篤 先生 (松本市立菅野中学校)	
記録者	白鳥志津子 先生 (松本市立波田中学校)	
世話係	大原 央之 先生 (附属松本中学校)	
学校名	研究の要旨	
飯田西中学校	職場体験学習の事前・事後学習を工夫することで、日々の生活や将来につながる生徒の成長をよりたしかなものになりたいと考えて行った実践の有効性について。	富田憲太郎
両小野中学校	生徒自らが課題をもち、情報交換をしながら創り上げる活動を通して、地域に貢献できることに充実感を得られる学習活動（アントプレナー学習）の実践において、総合的な学習の時間の学習を通しての学び合いや評価をどのように行っていけばよいか。また、コミュニティーデザインにつながる活動にするためには、どうすればよいか。	小松 優子
筑北中学校	人権教育の視点を大切にし、体験活動を通して自己の生き方・考え方を見つめていく総合的な学習の時間の具現において、「ひと」「もの」「こと」との出会い方、生徒一人一人が自己の課題を設定していくための支援・手立て・問いは、どういうものであればよいか。	阿部 考彰 猿田 一世
城北中学校	(レポートなし)	五十嵐 聡子
裾花中学校	自己の生き方についての考えを深めるキャリア教育のあり方として、生徒が探究的に学習を進める職場体験学習の展開の工夫はどうあったらよいか。	中村 和孝
篠ノ井西中学校	平和を願う人々の思いを知る学習から、友だち関係や、自分の身の回りの生活環境などの中で大切にすべきことを具体的に考えていくための手立てのあり方の究明	笠川 麻由香
鬼無里中学校	「ひと」「もの」「こと」の出会いから鬼無里の地のよさを発見する総合的な学習の時間を構想していくなかで、総合的な学習の時間の導入をいかに工夫し、またつける力はどのように考えていけばよいか。	高橋 和之
附属長野中学校	(レポートなし)	坂巻 主太

菅野中学校	(レポートなし)	田中 篤
波田中学校	(レポートなし)	白鳥 志津子
附属松本中学校	自らの内に問いを立て、主体的に探求していく総合的な学習の時間の具現において、「学級総合」としての学びの質を高める題材選定と教師の支援、また、日常・継続的な活動を行うための総合的な学習の時間のカリキュラムはどうあればよいか。	津金 俊文 大原 央之

IV 研究問題と協議内容

1 討議題「個の学びを大切にしている総合的な学習の時間における手立て・支援はどうあるべきか」

篠ノ井西中学校 『「人の思い」の追究を通して学んだことから自分のめざす生き方を考えていく力を高める指導のあり方』

筑北中学校 『人権教育の視点を大切に、体験活動を通して事故の生き方・考え方を見つめていく総合的な学習の時間』

【質疑・討議】

- ・3年間を通してのカリキュラムの在り方。
- ・「人の思い」を柱にしたカリキュラム。
- ・「相手のことを考える」という人権教育の視点を大切にしていくことの良さ。
- ・個から広がっていく課題に対しての支援や位置づけ、またそれらをどのように評価していくのか。

【指導者の先生のご指導】

- 総合的な学習の時間で大事にしている探求的な学習は、これから益々重要になっていく。探求的な学習のなかで問題解決的な力をつけた生徒とそうでない生徒とでは大きな差ができてしまうと思われる。生徒も、先生も互いに「楽しい」と言える総合の時間にしていきたい。
- 各校で総合的な学習の時間の全体計画を整備し、その際には、各校が置かれている地域の特性を大切にしていって、それが全体計画から見えるようにしていきたい。そして、全校の先生方で、全体計画を話題にし、ブラッシュアップして欲しい。
- 総合的な学習の時間においては、生徒が主体的に問題解決に取り組んで欲しい。その時、探求的な学習で示されている4つの家庭のうちの「整理・分析」の段階が難しいと考えられる。教師は生徒に任せすぎず、どのように整理・分析を進めていくか、道筋を幾つか示して欲しい。そうすることで、生徒はやり方を自ら選んで進めていくことができる。教師が出て、指導性を発揮することが必要な場もある。

2 討議題「日常・継続的に展開する総合的な学習の時間のカリキュラムはどうつくればよいか」

附属松本中学校 『自らの内に問いを立て、主体的に探求していく総合的な学習の時間』

裾花中学校 『自己の生き方についての考えを深めるキャリア教育のあり方』

飯田西中学校 『生徒が自分のふるさとの未来を見つめ、課題を意欲的に解決しようとする体験学習のあり方』

【質疑・討議】

- ・職場体験の事前事後活動における自己分析の良さ。
- ・総合的な学習の時間における「自己肯定感」の高まりについて。

【指導者の先生のご指導】

- 地域と結びついた実践のなかで、生徒ばかりでなく先生方も地域の方々から学んでいたりと、生徒が学んでいる姿勢に寄り添っていたりしている。そういった姿が、総合的な学習の時間で目指すべき姿に近づいているのではないかと。
- 職場体験を通し、仕事や人に出会い、中学生の多感な時期に、その子なりに将来について考えていく。そういった自分の姿を見つめ直す機会の一つが職場体験であり、自分を見つめ直す機会の事前、事後指導と考えると、振り返りも大切である。
- 事前、事後指導という考え方は、職場体験以外の他の行事にも当てはまることである。その行事の前後での、生徒の伸びを、生徒自身が感じられるようにしていくことが大事ではないだろうか。

3 討議題「地域の特色を活かした総合的な学習の時間における評価はどうあればよいか。」

鬼無里中学校 『「ひと」「もの」「こと」の出会いから鬼無里の地のよさを発見する総合的な学習の時間の構想』

両小野中学校 『生徒自らが課題をもち、情報交換をしながら創り上げる活動を通して、地域に貢献できることに充実感を得られる学習活動のあり方』

～アントレプレナー学習を通して～ 』

【質疑・討議】

- ・地域のことを上辺だけでなく知っていくための総合的な学習の時間。
- ・アントレプレナー学習を通して地域に貢献すること。
- ・地域の願いと子どもたちの活動との関わり。
- ・評価の材料、評価の規準について。

【指導者の先生のご指導】

- 総合的な学習の時間が、他の教科より一層大事にしていきたい点は、生徒の活動場面において、その変容の姿を見届けていきたいということ。年に数回でもよいので、授業での具体的な変容の姿を予め想定し、文字にして、視点をもって変容の姿を見ていきたい。
- 地域とのかかわりにおいて、活動が生徒にとって自分事になっていくどうかが大切である。自分事になると、その生徒にとっても本当の問題解決学習になっていく。
- 情報収集の過程において、生徒が実社会から集めてくる情報には、ノイズにあたるものがたくさん含まれている。それを授業という限られた時間や状況で、整理・分析していく必要がある。そのためには、教師の指導性が発揮されることも重要である。
- 生徒にとって意味があり、願う姿につながるような課題が設定されていくためには、課題設定の段階での教師の出が重要になる。

4 討議題「学校と地域とのかかわりはどうあったらよいか」

「一歩」店主 松本山賊焼応援団副団長 志賀丈師さんのお話から

- ・子どもたちから地域を巻き込んで山賊焼を地域の文化にしたいという思いがあり、自主的に子どもが取り組みたいという活動には我々もぜひ参加したい。
- ・我々も子どもたちとの関わりから、新しいものを取り入れていくことができている。
- ・地域の方との思いがかけ離れてしまうことのないように、直接顔を見て話すことが大事。何度も打ち合わせを行うことで、学校側の熱意が伝わる。
- ・子どもたちとの関わりによって、地域の活性化にもつながっていく。
- ・大人同士が「地域に育つ子どもを育てたい」という思いを共有していきたい。

【指導者の先生のご指導】

- 活動の中で、地域の方に協力をお願いするとき、学校として生徒のためにお願いしているのだから、協力してもらって当然、ということはない。我々、学校職員の姿勢が試されている。
- 学校の都合でやっていることが、必ずしも企業にそのまま通用するわけではない。そこにズレがあることも、我々は承知しておきたい。
- 生徒たちが、これから生きていく時代は、我々が育った時代とは、大きく変化していくことが予想されている。新しいこらからの時代に必要となる力をつけていくためにも、総合的な学習の時間の実践を大切にしていきたい。

(文責 松本市立波田中学校 白鳥志津子)

V 本年度の反省と来年度の方向

◎本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	○良い。 ○テーマは大きく構えていて、どの学校にもあてはまるものだと思いますが、逆に特色が出ないようにも感じます。 ○総合的な学習の時間が削減される中、カリキュラム開発はどの学校においても適用できるという意味で良いと思う一方、「カリキュラム」という言葉に決められた活動や、マニュアルといった印象を受けるとも思います。各学校で教材研究してきたことを、もう一度振り返ったり、さらによいものにしようとしたりする意識が大切かと思います。
○研究の主な内容と研究の成果について	○良い。 ○「特色を生かす」なので、各校で異なりますが、どのように特色をもたせるのかというところに着目するとよいと思います。
○研究の方法や経過について	○良い。 ○各校のやり方に任されているのが現状です。何か1つでもモデルが示せるとよいですが、多様化の中にあるので、難しいと思います。
○研究会当日の運営について	○良い。 ○発表の時間(15分)については、事前に周知徹底していった方がよい。多いところで、30分弱というところもあり、司会者の先生にご苦勞をかけてしまう。
○研究集録等のWebページ掲載について	○総合については外部とかかわることがあるので、一応許可をたった方がよい。(著作権などかかわることもあるかもしれない)
○本年度運営全般について	○地域の方を呼び、学べたことはよかった。

◎来年度の方向

○来年度の研究テーマ	○継続していてもよいが、生徒が自ら問いをもつことがすごく大切になると思います。それが探究的になり、生きる力につながると思う。何を題材にしたかというより、自己課題のもたせ方に注目してほしい。 ○現在のものでよい。
------------	--

○来年度の研究の趣旨	○キャリア教育と、特色のある学習展開の2本立てでよい。 ○特色に焦点を絞り、それにおいてグループ分けができるとよいのではないのでしょうか。
○来年度の研究の方法	○職場体験学習が早ければ、4年後、遅くとも10年後の就職活動に必ず役に立つ取り組みをしている学校が多く、もっと知りたいと思った。 ○特色のグループごとによって、カリキュラムの作り方に方向性が出るかもしれない。
○その他、改善したい点	○各学校で総合への力の入れ方がまちまちだと感じるが、全県で7本のレポートしか集まらないことには寂しい気がする。各学校、職場体験学習の取り組みを一つとっても、工夫していることはあると思うので、多くの参加者が集まると良い。筑北中や鬼無里中のような地域色の強い学校での取り組みについても知りたい。 ○他の分科会と比べて1つしか分科会がないのは寂しい。「総合」はおもしろいというか、研究しがいがあるものと、周知する必要があると思いました。 ○簡単なレポートやそれぞれの学校で取り組んでいる総合、実践をしている中での悩みを語り合える会にしていきたい。しかし、実践の中では長期的な実践もあるため、発表時間等の調整を行っていく必要がある。 ○来年度の分科会数については、検討していく必要がある。 今年度は分科会数を1へと減少してから、参加者（レポート持参）が増えてきたため、今考えると二分科会でもよかったかもしれない。 ○来年度の分科会数については、来年度の形態を検討しながら、決めだしていく必要がある。

VI あとがき

進路指導や個別懇談を控えた11月21日、学期末の忙しい時期ではありましたが、県下各地から、総合的な学習の時間を生徒主体の時間にされようと実践を重ねられている意欲あふれる先生方にお集まりいただきましたことに感謝申し上げます。当日の会も司会の先生方のご尽力と、参会者の先生方のおかげで、終日、熱い意見交換がなされました。実り多い一日となったのも、先生方の実践の確かさをおいて他にありません。本当にありがとうございました。

そして、指導者の中島健先生より、すべてのレポートに対して、温かく、的確なご指導をいただきましたこと、司会者の田中篤先生には、綿密な進行計画を立てていただき、研究協議の場がより深まったことに厚く感謝申し上げます。また、記録者の白鳥志津子先生には、記録を取りながらも、熱心に審議にも参加いただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

来年度も県下各地の先生方の熱い思いや、生徒とともに歩み、創りあげた実践に出会えることが今から待ち遠しい思いです。参会の先生方の今後の一層のご活躍を祈念申し上げ、御礼といたします。ありがとうございました。

委員長 大原 央之
副委員長 坂巻 主太